

「体験型の平和学習」

～生命の大切さを地域で考える～

北九州市立尾倉市民センター 館長 上野常子
八幡東区役所コミュニティ支援課 生涯学習係長 河内徹也

○地域の概要

北九州市立尾倉市民センターは、南には皿倉山がそびえ、北は八幡駅までを校区とする地域内にあり、人口約1万2千人、5つの自治区会をかかえ高齢化が進む地域である。古くからの住民と駅前再開発などにより転居してきた新しい住民とに分かれている。

尾倉市民センターは公民館時代から数えて開館55年を経過した。平成23年度に大規模改修を行い、平成24年4月よりリニューアル開館された。皿倉小学校と敷地を共有し、小・中学校、諸団体や地域と連携を密にし、様々な講座・事業でお互い協力し合える関係を作っている。

○事業名

- ①「8.8八幡大空襲を語り継ぐ お話とふれあいコンサート」
- ②「じぶんのいのちは自分で守る ～子ども防災・避難所宿泊体験～」

○事業の目的

- ①昭和20年8月8日に起こった八幡大空襲で八幡東区(旧八幡市)は焼け野原となり、多くの命が失われた。町は燃え続け、その煙は翌8月9日、原子爆弾落下の標的になっていた小倉の町まで覆い、長崎に投下標的が変更されたといわれている。特に被害の大きかった尾倉に住む私たちが、この「八幡大空襲」について後世に語り継ぎ、平和の大切さや命の尊さについてあらためて考える機会とするため。
- ②指定避難所である市民センターで避難所宿泊体験を親元から離れて行うことで、子どもうちから自主的に危機管理意識や防災意識を持つ必要性を知ってもらうため。

○事業の実施主体

- ①尾倉市民センター
- ②尾倉青少年育成会、尾倉市民センター(共催)

○連携・協力機関・団体等

- ①帆柱町内会館(自治公民館・小地区公民館)、八幡東区コミュニティ支援課

○事業予算

- ①生涯学習市民講座予算
- ②子どもゆめ基金助成金、参加費

○実施に至る経緯

- ①帆柱町内会館の地域内に八幡大空襲の語り部として、また折鶴絵作家として活躍されている岳藤悟さんがおられることから、平和講演会を市民センターと共催したいと、帆柱町内会館の三原館長から相談があった。
- ②平成23年3月11日に起こった東日本大震災を教訓に、子どもでも自分の安全は自分で守ることや、もし災害等にあったとき自分にはどんなことができるのか?ということを様々な体験を通し学習してもらうために計画した。

○プログラム作成の視点

- ①自分が住んでいる地域で起きた八幡大空襲を風化させてはいけないことを地域住民に感じてもらえる事業としたかった。また、多世代で一緒に戦争の悲惨さ、命の尊さを学んでいただくため、子どもを巻き込んだ事業となるように夏休みの子ども講座に組み込んだ。
- ②子ども対象の防災体験を行いたいという相談に対し、八幡東消防署から事業の計画から実施まで幅広く協力していただけることになった。さらに、市民センターが災害時の避難所になっていることを地域に知ってもらうチャンスなので宿泊体験型で実施した。中でも、東日本大震災が起こった直後に支援活動に派遣された消防隊員のお話を組み入れる機会に恵まれた。東北地方で起こった災害から二年半を経過したが、まだ復興には遠く、この大震災も忘れてはいけないことだということを、少しでも子どもたちに感じてもらいたかった。

○事業の内容

- ①8月8日、八幡大空襲当日に行った「お話とふれあいコンサート」では、最初に講師の岳藤さんが、自分で描かれた紙芝居を使って、子どもの頃体験された戦争の様子などを語られ、続いて八幡大空襲の様子をお話しされた。
当日は、地域の方49名、小学生26名の参加があり、岳藤さんのお話を熱心に聞いていた。



【講師の岳藤悟さんと 紙芝居をめくるお手伝いをされている 小学6年生のお孫さん】

講師の岳藤悟さんは1932年生まれで現在81歳。折鶴絵の作家として、また八幡大空襲の語り部として活躍されている。折鶴を折り始めたのは中学生の頃、被爆した知人を見舞うために訪れた広島市の原爆病院で、身体にケロイドが残る患者の方たちを見て、「慰めになれば」と千羽鶴を送ったのがきっかけである。折鶴絵の制作は平和への願いと共に、戦争体験を後世に伝えておかなければいけないというご本人の強い思いから、今日まで地道に活動を続けられている。

この関連事業として7月23日から8月20日まで、ロビーで岳藤さんの折鶴絵の作品展示を行った。折鶴絵とは、1.8cmから2.5cm四方の折紙で鶴を折り、その折鶴を使って絵を描き額縁に入れ作品として出来上がる。1つの作品の完成までに数カ月にかかることもあるそうだ。岳藤さんが子どもの頃にみた高射砲台の風景や、飛行機から爆弾が落とされる様子などが、小さい折鶴で描かれている。

②講座の参加者は小学4年から6年生の定員25名。

7/30	
13:00	開講式・オリエンテーション
13:30	消火訓練・起震車の体験
15:40	災害が起きた時の避難について
16:45	夕食作り・火おこしから自炊体験
19:00	就寝時の仕切り設営
20:00	防災パトロール
21:30	就寝
7/31	
7:00	起床
7:30	朝食に非常食をたべてみよう。
8:30	仕切り片付け、講義準備
9:30	東日本大震災の被害・復興活動について
10:30	八幡東消防署の見学（職場体験）
12:00	昼食
13:00	閉講式 修了証の授与、記念撮影
13:30	解散



【起震車体験】



【講義】



【夕食作り】

【体験型の平和学習プログラム】

○事業の成果

- ・事業の目的である人的災害と自然災害の怖さを同時に体験することによって、子どもたちに「命の大切さ」の記憶が胸に刻まれたと思う。また、戦争を知らない世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることで、子どもたちは、戦争は起こしてはいけないことや自分の命は自分で守ることを学んだ。

また、この事業を通じて、友達や家族、地域の方たちと「命の大切さ」について考える機会ができた。

○今後の課題

- ・語り部の方々が高齢化しているので、活動を続けている間に様々な機会を設け、八幡大空襲について語り継いでもらい、平和や命の大切さを学ぶ場をもっと増やしたい。
- ・事業は単年計画なので、まずは自然災害に備えた防災体験の重要性を今後も継続して実施していくことが重要である。
- ・多世代で学べるよう、子どもを巻き込みながら、地域住民全体に取り組みを広げる必要がある。
- ・予算の確保と消防署や諸団体の協力、さらに必要なボランティアを確保できるかが課題である。

○問合せ先

〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉一丁目15番2号

北九州市立尾倉市民センター

TEL093-661-0516 FAX093-661-0528 E-mail og-cc@ktqc02.net